

監修 武田純三

編集 野村 実／山田達也／小出康弘

## 周術期経食道心エコー実践法 (第2版)



周術期経食道心エコー実践法の第2版の翻訳が出版された。紫本として親しまれた初版訳本は2005年出版であったので5年ぶりということになる。今回の包装はやや赤みがかかった紫色となり、カラー画像も大幅に増加されている。翻訳者も8名と前版の13名より少人数に厳選されており、全般を通してわかりやすく訳されているようである。初版本は日本語で書かれた経食道心エコーテスト (JB-POT) のバイブルとして定評があった。しかし、この5年の間に経食道心エコーに関する日本語教科書や訳本が数多く出版されており、前回とは状況が若干異なっている。有用性の高い充実した内容でなければ日本語教科書としての価値はあまりない状況にある。

本の厚みとしては初版の約1.5倍と容量が増えている。内容的には臨床により役立つことを重んじたためか、弁疾患の分野の充実が目立つ。最も経食道心エコー (TEE) が有用と考えられる僧帽弁形成術の章は、その成因から手術時の評価診断まで詳細に記載されており、ほぼ全てを網羅しているといっても過言ではない。その他でも、僧帽弁閉鎖不全症や大動脈弁逆流症の成因や評価なども十分な内容である。弁狭窄に対しても、大動脈弁を中心に詳しく評価診断法が記載されている。人工弁の評価方法も詳細に記載されているが、弁輪拡大術やBentall手術などの評価も追加してほしいところである。

その他の分野でも、心機能評価では虚血評価や収縮能評価などの左室心機能だけでなく拡張能評価も新たに書き加えられており有用性が高い。少しではあるがストレインなどにも言及している。ドプラーを利用した定量的評価も詳細に記載されている。また、エコーの基本原則から大動脈解離症例の評価、成人先天性心疾患などもこの本だけで必要最低限のポイントを押さえ

- ・真興交易(株)医書出版部
- ・2010年10月15日 第2版第1刷発行
- ・B5判/516頁/並製本
- ・定価 (本体13,000円+税)
- ・ISBN 978-4-88003-845-2

ることが可能である。巻末に付録されている弁の重症度評価や人工弁の正常値なども何かと役に立つ。

原書が2008年出版であるため、3Dエコーについての記載はほとんどみられない。また、大血管ステント留置や経皮の大動脈弁置換術などの新しい治療でのTEEの記載もみられない。Reimplantationなどの大動脈弁形成術に対する評価診断もほしいところである。今後の改訂で追加されるであろうことを期待する。また、個人的には左室補助装置装着術や心臓移植症例、小児心臓手術などの項目も追加してほしい。

余談ではあるが、初版本のときも原書を購入した1年後に、書評依頼として訳本を初めて手にしたが、今回も第2版原書購入半年後に書評を再度依頼されることとなった。読み比べれば当然のことではあるが、日本語で書かれている訳本のほうが読みやすく理解もしやすい。一通り読み通すことでTEEについて大まかな内容を理解することができるため、ぜひとも手元に1冊置いておきたい本である。

大西佳彦

(国立循環器病研究センター麻酔科；手術部長)